２０１１年3月3発行　NO.２６

TAKEHARA ROTARY CLUB　　ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2710

WEEKLY　BULLETIN　竹原ロータリークラブ週報

地域を育み、大陸をつなぐ

2010－2011年度　国際ロータリー会長
レイ・クリンギンスミス

会　　長	佐々木秀明	副ＳＡＡ	森　　照明
会長ノミニー	下山　生修	直前会長	中川　康子
副 会 長	荒谷　隆文	管理運営	本庄　純夫
幹　　事	尾野　剛章	会員組織	川本　照夫
副 幹 事	大森　　寛	奉　　仕	市川　重雄
会　　計	梶谷　寛康	広　　報	久藤　孝仁
Ｓ Ａ Ａ	木村　安伸	Ｒ財米山	朝比奈勝也

＜事務局＞〒725-0026竹原市中央4丁目6－18樋ノ口屋おおぎビル203号
TEL　0846-22-7570　FAX　0846-22-7651
Email:rc-take@estate.ocn.ne.jp
URL:http://www5.ocn.ne.jp/~rc-take/
＜例会場＞〒725-0021竹原市竹原町3591－1 大広苑
TEL　0846-22-2970　FAX　0846-22-7822
＜例会日＞毎週木曜日12：30～13：30　　発行：クラブ広報委員会

今週のプログラム　３月３日

誕生祝･各会員各記念日祝
誕 生 該 当 者 会 員 卓 話

次週のプログラム　３月１０日

社会奉仕委員会担当例会

2011年2月24日　第2279回(自由席)例会記録

■ソング：それでこそロータリー

各会員各記念日（３月）

■会員誕生日	水内　　繁	佐々木秀明
	朝比奈勝也	大成　義彦
■配偶者誕生日	尾野　剛章	佐々木秀明
	吉岡　一眞	吉本きよ子
	吉田　卓司	
■結婚記念日	水内　　繁	金澤　節生
	荒谷　隆文	小田　邦治
	小坂　啓子	
■事業所創立	佐渡　文武	坂田　武文
	澤原慎太郎	

スマイルボックス

■会員誕生日　…吉田
■配偶者誕生日…吉田
■結婚記念日　…吉田
■事業所創立　…吉田
■特別スマイル
・先週の日曜日、妻の還暦を子供、孫達が祝ってくれました。楽しい一日でした。　（荒谷隆文）
・IMも終わり次は4クラブです。4クラブ合同例会も宜しくお願い致します。　（佐々木秀明）
・広島県石材工業協同組合の総会が昨日無事終りました。総会、懇親会と大変疲れました。
（久藤孝仁）

会　長　の　時　間

会長　佐々木　秀明

皆様こんにちは、早いもので今回二月最後の例会となります。春はすぐそこに来ておりますが、花粉症の方にはつらい季節でもあります。十分な対策で乗り切ってください。

昨日2月23日はロータリーの誕生日で四人から始まり百年余り続いたロータリーで、現在では200以上の国、クラブ数34,103、会員数120万人になりこの先もロータリーの活動も広がり続けていきます。竹原ロータリーも活動を続けていきます。

2月19日(土)のIMは多数の参加有難うございました。IMも終わり次は4クラブ合同例会です。3月17日(木)に賀茂川荘で行いますので宜しくお願致します。

例会への来賓についてですが、特に興味深いプログラムが準備できたというときにはロータリアンではない地元の人、一般の人々を招待してほしいとされています。ロータリークラブの役割とその目的を理解してもらう広報のいい機会になるからです。若い人たち、学生や生徒たちも来賓として奨励されています。彼らにも、ロータリーのことを知ってもらえます。来賓は、なるべく色々な人に来てもらうことがクラブにとっても良い刺激になりますから、同じ人を繰り返しというのは望ましくないとされています。もちろん、ロータリアンと配偶者は、大歓迎です。例会にクラブの会員以外の人が参加すればクラブ奉仕活動の実態を知ってもらえて、親睦も深まり、さらには新会員の入会に繋がるかもしれないからです。下山さんから、来賓にこられた大久野島の支配人義本さんより入会のお返事を頂きました。と報告を受けました。義本さんは大変忙しい方で入会は難しいだろうと言われておりましたので、大変驚き、嬉しく思いました。非常に感じがよく好感の持てる方です。４月７日に入会の予定をしておりますので宜しくお願致します。現在会員38名、義本さんの入会で3

9名となります。私は今年度の会員増強を純増2名と挙げておりましたが新入会員2名・再入会1名となりまして今年度の目標を達成いたしました。これも皆様のご尽力のおかげです。今後も会員拡大へ取り組んでいきましょう。これで会長の時間を終わります。

委 員 会 報 告

■親睦委員会　　委員長　吉本きよ子
後期家庭集会を開催していただきますよう各班リーダーの方は宜しくお願いします。

ＩＭ 参 加 報 告

会員　久藤　孝仁

2月19日(土)尾道国際ホテルに於いてG9IMが開催されました。第一部は13時30分村上清司ガバナー補佐の点鐘で始まり、尾道ＲＣ会長の歓迎の挨拶があり、続いて2710地区前田ガバナーより、ＩＭは会員相互の親睦の場であり、知識を広め情報交換の場である。職業倫理を柱に今日のパネルディスカッションに期待をいたします。今後は青少年との関わりも大事ではなかろうか。この後の『ロータリーは町づくりの応援団になりうるか』という、外から見るロータリーの視点は有意義で印象深いものです。とご挨拶がありました。
次に、村上ガバナー補佐の挨拶で、前田ガバナーは本年度のテーマに「ロータリーの絆を持とう」と呼びかけられています。本日のテーマを「ロータリーは町づくりの応援団になりうるか」といたしましたが、ロータリーに対して、地域のニーズはあるのか。それに対してロータリーは応えられるのか。また、成功のチャンスを生かすのはロータリアン全員のチャレンジである。熱い思いのチャレンジがより一層にロータリーの絆が生まれることを願うと話されました。
第二部は、「ロータリーは町づくりの応援団になりうるか」というテーマで、コーディネーター役に、手塚ＩＭ実行委員長、パネラーに尾道市長平谷祐宏様、三原市長五藤康之様、竹原市長小坂政司様、前田ガバナー、それに、村上ガバナー補佐、8名によるパネルディスカッションが行われました。
各市の紹介では、三原市は、人に優しい市、人材資源に磨きをかけ健康な町づくりを目標にしている。竹原市長から、他市に先駆けて、協働の町づくりを提唱しているが、その核としてロータリーの方々の活躍が力になる。尾道市長からは、尾道市は気概を持って、覚悟を決めた活動、行政を目指しているとのこと。
コーディネーターの手塚実行委員長から、ロータリーは町の応援団ということの歴史が説明あり、その事例が発表されました。
昭和30年代、広島ＲＣの当時16名の会員が広島に多くの人が集まる施設がないことに奮起して、ラーメンが一杯40円の時代に建設費3億3700万円、キャ

パシティが2000名の公会堂を建設したこと。戦後には、世界の中でロータリアンの集会から、ユネスコ、国際連合の設立に関与があった。など、ロータリークラブの世界での影響、関与を紹介されました。その後、７ＲＣの現状報告が行われました。竹原ＲＣは、佐々木会長より竹原ロードレースにおけるぜんざいのふるまい、7月の水泳大会、8月には「津軽三味線」のコンサート、11月には聖恵授産所で文化祭への手伝いを実施したことなど、今後も地域社会への貢献を継続して行くことを報告しました。それに対し竹原市長も、ロータリークラブの貢献は知っている。今後も竹原広報等プレスリリースで連携していきたいと述べられました。
手塚コーディネーターより“ロータリークラブに対する要望等はないか？”との質問に対し、三原市長「芸術、文化への貢献を期待する。」、竹原市長「人であり、文化であり、いろいろと行政と一体となって今後も、支援いただきたい。」、
前田ガバナー「地域行政に、ロータリアンの多様な職種での関わりを有意義に活用して下さい。」
“ロータリーが行政に関われるか？”には、
三原市長「今後、国際関係の支援をロータリークラブの方々にお願いをしたい」、尾道市長「ロータリークラブの方々のヒュウマンネットワーク、新しい発想、また芸術、文化、国際化のサポートを期待したい。」、三原市長「ロータリーは政治に関わらないと言うのは、選挙に関わらない、ということで、生活の中等には、しっかりと行政に関わっていただきたい」、また、各地域には、ロータリークラブ以外の多くの奉仕団体があるが、ロータリークラブの方々の率直で公平な意見が、市政へご提言いただけるのではないかとの意見もありました。
最後に前田ガバナーの講評で、ポリオ撲滅、青少年に目を向ける。財団への協力またＲＩテーマの実現化に皆様のご協力をお願いしたいとの提案がありました。その後、G9上田隆治次年度ガバナー補佐の挨拶で、本日のテーマ「ロータリーは町づくりの応援団になりうるか」を、We ServeよりＩＳerveとの観点から「ロータリアンは、町づくりの

応援団になりうるか」との質問を投げかけられました。また、次年度は、とにかく楽しみましょう。楽しくないから退会者や会員増強が難しいのではないかとのご意見もいただき、持論を含みながらの挨拶で次年度への目標の一辺を語られ閉会へとなりました。
その後の懇親会ではパーカッション、アコースティックギター、バイオリンの演奏を聴きながら、楽しく懇親会をさせていただきました。当日の竹原ロータリークラブ参加者24名無事帰路につき、IMの目的である「情報交換、親睦」を楽しんだことをご報告いたします。

３分間スピーチ

会員　森　照明

ロータリーに入会させていただき9年目を迎えようとしています。昨年夏ごろより特に暑かったせいか足腰が一段と弱くなり、少しの段差につまずいたり、階段の上り下りには気をつけています。また物忘れ、人の名前が直ぐに思い出せないようになりました。70歳を過ぎるとそうなのかと思います。皆さんは如何ですか。
また最近ではインターネットを時々見ています。皆さんもご覧になっていると思いますがパソコンに疎い私はびっくりしております。各クラブの活動や週報など見れてインターネットは本当に便利が良いですね、ただ使い方を誤ると怖いものなので私には中々使いこなせないのが現実です。
話は変わりますが、私の一番の楽しみはお風呂です。最近は大広苑のサウナにも来ています。昨年9月の連休には庄原簡保センターへ一泊で行って来ました。途中、国営備北丘陵公園へ寄り、園内を楽しみましたが、何せ暑くて、早歩きで周りましたので家内も付いて歩くのが大変だったらしいです。散策を楽しむ間もなく早々に簡保センターに行きました。以前から一度こちらの温泉に入りたいと思っていたのですが、思っていた以上の湯で、満足して三度も入りました。
翌日は東城の帝釈峡を一周約40分の遊覧船で楽しみました。そこからは福山の鞆の浦に行きました。観光をと思いましたが駐車場がなく、そのままUターンし、尾道の千光寺にも駐車場がなく2号線から千光寺参拝をしましたが、その帰りに寄った焼き肉店には空き駐車場がたくさんあり皮肉なものでした。そのまま須波のみはらし温泉に寄り、ゆっくり湯につかりくつろいで帰りました。この二日間で走行距離320キロ。安全運転を心掛けてゆっくり走りましたが320キロも走ったのは久しぶりでした。

老いてこそ人生！

会員　吉岡　一眞

今日、平均寿命が延びてきていますが、東京工業大学の生物学者本川教授が「おまけの人生」というエッセイ集の中で「人間は本来50才位で死ぬはず」と書かれています。
それは動物の心臓の鼓動回数や体のサイズから割り出したもので、どの動物も心臓が15億回打つと死ぬということです。
例えばゾウは1分間にゆっくり20回位打って70年生き、ハツカネズミは1分間に600～700回打って、1～2年の寿命、人間は約1秒に1回で寿命は約50年が限度といわれています。
自然界ではTVでよく放映されている鮭のように、次の世代を残す目的を達すれば死んでしまいます。人間のように「老い」の時間をもつものはいないそうです。50才以降の生というものは医療や科学技術の発達によってつくられた特別な時間であり、感謝しなければならないとしています。
人生には当然限りがあります。昔は人間の平均寿命は50年、現代ではそれが延びて80年、誰しも人生の過程のいずれかの時点で、自らの老いを感じます。何をきっかけにかは、それぞれ異なるでしょうが、「老い」を自覚するのは人間として成熟を遂げてきた頃です。老いは時間のもたらす必然の結果なのです。
現代文明の諸々の効用によって、日本人の平均寿命が長くなっただけでなく、健康な老人が普通のようになりました。
これからの生涯を第二の人生などといわず、人生そのものの仕上げの一番成熟・充実した時期と思って、今までの経験と冷静さをもって「老い」を楽しみましょう。

出　席　報　告

総員	出席	欠席	メーク	免除	出席率
３８名	２８名	３名	３名	４名	９２．１１％